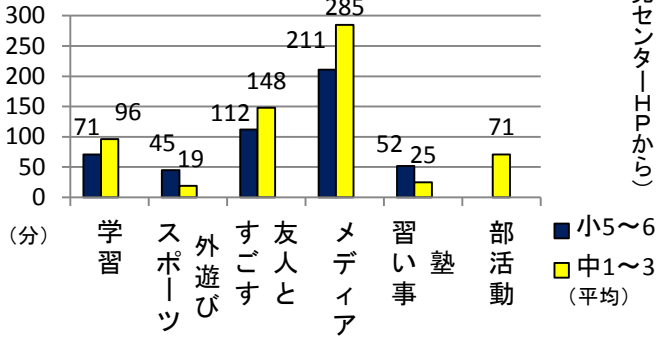


★ 中部教育事務所管内の社会教育情報を発信します ★

表1: 1日の生活時間(平成20年)



(ベネッセ教育研究開発センターHPから)

放課後の子どもたちはどのように過ごしているのでしょうか。表1を見ると、小・中学生ともにメディアを使用する時間が最も多くなっており、その中でも

放課後はテレビ・ゲーム

学校が終わわり、家で家族の帰りを一人待っている。そんな子どもたちの姿を想像したことがありますか。核家族化、増える共働き、ネット社会の光と影。子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化してきています。今号では、放課後の子どもたちの実態と子どもたちの安全・安心・学びにつながる事例を通して、「子どもたちを地域で見守る」ことについて考えてみます。

特集！放課後の子どもたち



(囲碁・将棋クラブ)

テレビやゲーム・携帯電話に費やす時間が最も多く、小学生(150分)・中学生(174分)となっています。また通塾割合(家庭教師含む)も高くなってきており、H24全国学力・学習状況調査では、高知県の塾に通う子どもとの割合は、小学六年生で約46%、中学三年生で約51%を占めています。

一方、同調査によると、小学生(約47%)・中学生(約65%)は地域の行事に参加していないという結果も出ており、地域社会との関わりが減少してきています。

テレビやゲーム・携帯電話に費やす時間が最も多く、小学生(150分)・中学生(174分)となっています。

表2: 児童クラブ・子ども教室(中部管内小学校)

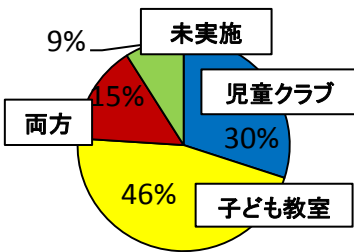


表2は中部教育事務所管内の児童クラブ、子ども教室の状況を示しています。

高知県では放課後の子どもたちの育成を支援するために小学生を対象とした「放課後児童クラブ」や「放課後子ども教室」、中学生を対象にした「放課後子ども学習室」を充実させる取り組みを進めています。

見守り・ふれあい

用語

【放課後児童クラブ】

目的: 保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生へ放課後の生活の場を提供し、保育を行う。児童福祉法第6条の2第2項に規定された社会福祉事業。

利用料: 原則有料。

提供される内容:

家庭に代わる生活の場所。保護者に代わる生活指導。健康管理、おやつを提供。

所管: 厚生労働省

【放課後子ども教室・学習室】

目的: 安全・安心な子どもの活動拠点として、学習・体験活動やスポーツ、地域住民との交流活動等を行う社会教育事業。

利用料: 無料

提供される内容:

安全、安心な学び・遊び場の場所・体験活動の提供。

所管: 文部科学省



(茶道クラブ)

小学校では、保護者のニーズも高く、児童クラブ・子ども教室のいずれかを設置している所がほとんどです。保護者が帰宅するまでの間の見守りや、地域住民とのふれあいの場が確保されています。未実施校でも、児童館等がその役割を果たしている所もあります。

.....

次に伊野南小学校の取り組みを通して、小学生の見守りを考えてみます。



プロフィール: 大嶋登喜子さん
伊野南小学校
ログハウス児童会指導員
児童会開設時から中心者として尽力
高知県放課後子どもプラン委員
高知県地域による教育支援活動推進委員

南っ子コミュニティの挑戦

～小学生の放課後を、伊野南小学校の取り組みから考える～

☆インタビュー☆ 大嶋登喜子さんに聞く

○ログハウス開設の経緯は：
学童保育をつくる会を立ち上げ、行政にお願いしに行っただけですが、支援が見込めなかったため、保護者に協力を呼びかけ、木を運んだり防腐剤を塗ったり、炊き出しをしたりする等、少しでも利用者に負担がかからないようにしてつくりました。かかった費用も8年で完済しました。



(児童クラブで勉強)

○学校との連携に苦労している所もあると聞きましたが：
県の委員ともさせて頂いて、いろいろなので、「大嶋さんのところはどうか」と聞かれるのですが、「うちはお世辞ではなく、代々の校長先生や皆さんに理解されていて、すごく助かっています。でも、県内には、学校と連携が取れなくて肩身の狭い思いをして子どもを見ている学童もあるようです。

大事なものは、支援員から参観日や行事に積極的に参加することだと思えます。そうすればいつか学校は心を開いてくれると思います。

○現在苦労していることは：
発達障害の子どもに対する支援について分からない時があります。勉強会に参加したり、指導員同士で話し合ったり保護者や学校と連携したりしています。

伊野南小学校はとても協力的で、特別な配慮が必要な子どもさんについて「今日はちよつと落ち着きがないです」とか、「学校で泣いたのでログでも大変かもしれないかもしれません」と等、担任の先生からの引き継ぎがあり、すごくありがたいです。

ログハウス児童会

所在地
吾川郡いの町
八田2321
児童数74人
支援員数 10人
放課後～17:30
8:30～12:00(土曜)
8:30～17:30(代休日)

○指導員さんの研鑽は：
自慢するわけではないですが、月に少なくとも一回は研修会をしています。私や他の人が勉強したことをみんなで学んだり、「あの時はこうしたらとか、あの場面は怒り過ぎたね」とか、指導についての確認をしています。一人一人の指導員の個性は大事だけれど、皆が同じ方向性を持つことを常々考え

南っ子コミュニティの活動

- 生涯学習教室の整備開放
- ・放課後体験教室
- 平日 15:00～16:30
- 日曜 9:00～12:00
- 教室 折り紙・三味線・ヨガ
フラワーアレンジメント
バスケットボール
ダンス教室
将棋・すつとん会
- ・夏休み体験教室 ～土佐和紙のちぎり絵で日記(絵本型)作り～
- 看板作り
- ・あいさつ標語・さつまいも畑にECO看板
- 奥田川の水辺プロジェクト
- ・伊野南公園の花作り・奥田川の水辺公園の環境整備
- 学校の裏山に避難道整備
- 図書・環境支援・学校安全ボランティア

○南っ子がめざすもの：
何しようかな。誰もいなくてさみしいなあと思った時に、コミュニティで常にかかっている、一緒に遊んだり、話したり、何かをつくる。そんな地域の人の居場所を目指しています。そして、学校に地域の人が来る事によって、「遅くまでなにしゆう。はよう帰り」など、お互いに声をかけ合う事ができる地域社会を目指しています。



(ダンス教室)

○成果と課題
まだ目に見えてはいませんが、「広報を見て」という電話がかかってきたり、「折り紙教室に近所の子が行きたい」と声をかけられたりするようになってきました。また種が少しずつ芽を出してきている感じがします。
課題は体験教室の大人の参加者が少ないことです。もっとたくさんの人に来てもらいたいですね。

○これからしたいこと
地域から学校が離れているので、花公園とか親水公園に散歩に来たついでに、学校に寄って、折り紙でも折つてみようみたいなものを目指しています。親水公園には福島県の菖蒲があります。高知の菖蒲より背が高く見ごたえがありますよ。花が咲き乱れた花公園や奥田川を歩きながらオリエンテーリングをするようなお祭りのイベントを開いて南っ子のPRをしたいですね。

中学生に放課後の見守りは必要？

中部教育事務所では、昨年度管内で子ども学習室を実施している市町村・学校に対して聞き取り調査を行いました。その結果を通して、中学生の放課後について考えてみます。

メリットは・・・

- 「家庭で学習できない子への手助けになり大変ありがたい」
- 「学習の遅れている生徒に手厚く支援ができる」
- 「大学生と話ができることで、情緒が安定し生活が落ち着いてきた」
- 「不登校傾向の子どもの居場所が確保できる」
- 「高校中退者の減少」
- 「生徒の荒れや授業エスケープがなくなった」
- 「自学の習慣が付き、家庭学習につながっている」

(市町村からの意見)

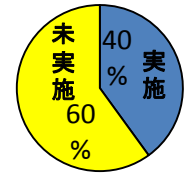


表4：子ども学習室
(中部管内中学校)

市町村の意見から見えてくることは、放課後の見守りは学習意欲の喚起や、学校生活・心の安定、塾に通えない子どもたちの学力向上等にも効果があるということが分かります。

教員が放課後のサポートを行っている学校もありますが、地域の人材を活用し地域の人と触れ合うことで、「生徒の変容」や「地域の教育力向上」というメリットがあるのではないのでしょうか。

子どものために・・・

指導者の確保。報酬や保険、指導員の質、学校との関係。実施している市町村は課題を抱えながら、中学生の放課後の居場所づくりや学力保障に取り組んでいます。

授業が分からぬ。高校入試が不安。熱中することがなくて非行に走る。友達関係に悩み教室に入れない。そんな子どもたちが、地域住民と交流し、安心して過ごす。そんな放課後の見守りの場をつくってみませんか。

☆担当の一言☆

今回は、放課後の子どもたちの姿を通して、学校や地域との関わり合いを考えてみました。でも国の事業には同じようなものがあり、どのように関わっていくのかうまく整理が付きませんでした。そんな時インターネットで、前川喜平氏の発言がのっているHPを見つけました。前川氏の意見を読んでいると今後の方向性について整理できすっきりしたので、参考までに紹介します。

ツールはいろいろ・・・



(写真と本文とは関係ありません)

放課後の見守りは子どもプランの他にも、**学校支援地域本部事業**や**チャレンジ塾**などもあります。中学生の放課後の見守りの実施にあたっては、それぞれの**事業趣旨を理解し**、市町村や学校に**最適な事業を選んでみる**はどうでしょうか。

今後さらに進化するであろう「コミュニティ・スクール」の概略や期待

文部科学省大臣官房総括審議官：前川喜平氏から

国の政策には、文部科学省の放課後子どもプラン・学校支援地域本部事業やコミュニティ・スクールなどの取り組みがいくつかあります。まずは放課後子ども教室を開く所から始めていく。学校へいきなり入って行くんじゃなくて、地域の大人たちが関わる場所をつくる。一定の関係ができたなら、地域が学校の中に入って行く学校支援地域本部を作る。学校の中に地域の人や保護者が入ってきても教員が違和感を持たなくなったら、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を作っていく。最終的には放課後子ども教室や学校支援地域本部・学校運営協議会など別々の所でやっているものが将来一つになっていき、地域コミュニティ学校(仮称)というスタイルになり、学校・家庭・地域が融合していく、そんなものを想定しています。

中部教育事務所の業務について

「志・とさ学びの日」を契機として、生涯を通し学ぶ喜びに満ちた教育的風土づくりを進めるために、各市町村の社会教育委員会やPTA、その他の社会教育諸団体と連携を図りながら支援助言を行っていきます。また、情報収集に努め社会教育に役立つ情報を発信していきます。地域の活動等情報がありましたらお知らせください。

連絡先：高知県教育委員会事務局中部教育事務所
TEL 088-893-6166 FAX 088-893-6167
E-mail 310305@ken.pref.kochi.lg.jp
担当：中嶋・中越